

生徒、職員、保護者、地域 関係するすべての人が生き生きと輝く学校を目指して

1 スクールミッション

生徒、教員、保護者、地域人材そして学校関係者すべてが、あらゆる教育活動に対して主体的に臨み、創造性や思考力・判断力等を存分に生かしながら有効な行動・実践を図ることで、これからの予測困難な社会をたくましく生き抜き活躍する生徒の資質・能力を育成する。併せて、地域をはじめとした社会等との協働や連携をとおして、生徒が持続可能なコミュニティの形成に関与しながら、今後必要となる資質・能力の育成を図る。

2 目指す姿

(1) 目指す学校像

常にウェルビーイングの向上を目指しながら、

- ・すべての関係者が、「誇り、安心、期待」といった気持ちをもつことのできる学校
- ・小規模校としての「良さ」を存分に生かし、生徒の「主体的な学び」を実現できる学校
- ・社会との関わりを大切にされた教育活動を実践する学校

(2) 目指す生徒像

- ・これからの予測困難な社会の中でたくましく生き抜くための資質・能力を身に付けた生徒
- ・自己有用感・自尊感情といった意識を醸成し、将来に見通しをもつことができる生徒

(3) 目指す教職員像

- ・「ライフ・ワーク・バランス」をもち、自らの生活も十分に大切にしようとする教職員
- ・確かな指導力、広い視野そして調整力を発揮しながら、学校教育に携わろうとする教職員

3 教育目標

本校では、「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を目指した不易的な目標を長らく掲げている。一方で、変化の激しい社会をたくましく生き抜き、「持続可能な社会の創り手」となる人材の育成という喫緊の課題を踏まえ、東京都並びに青梅市教育委員会の指針・目標等に基づきながら、短期的な目標も別に設け、主体性や創造性を主とした資質・能力の醸成を図る。

(1) 不易的な目標 「優しい人になろう、正しい人になろう、たくましい人になろう」

(2) 短期的な目標 『進取果敢(しんしゅかかん)』

現状に満足することなく、困難を恐れず自分から進んで新しいことに取り組む

4 スクールポリシー(カリキュラムポリシー)

(1) 「21世紀型スキル」を育成、醸成する。

①認知能力(論理的思考力、創造性等) ②非認知能力(コミュニケーション能力、協働性等)

③ICTに関するスキル(デジタル・リテラシー[使う技術]、データ・リテラシー[情報収集、読解、活用])

(2) 授業を軸として生徒の「主体的な学び」を実践する態度や資質・能力を養い、『自律した学習者(アクティブラーナー)』を育成する。

(3) 未知なるものや困難なものに対して、自ら進んで挑戦しようとする態度を養う。また、新たなことに対して、見通しを立てて取り組むことのできる力を育成する。

(4) 自己肯定感や自己実現の確立・醸成を図るため、自分の良さや個性を認識し伸ばさせようとする態度を養う。

(5) 多種多様な体験活動を設定し、主体性の礎となる「興味・関心」を見つける機会を増やしながら、メタ認知の力や創造性などを向上させる。また、読書活動を体験活動に準ずるものと位置づけ推進する。

(6) 授業や学校行事をとおして、健やかな心と体の育成・伸長を図る。

- (7) 『DE&I』(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)に係る教育を推進し、多様性の理解・実践など、持続可能な社会づくりに必要な資質・能力を育成、向上させる。
- (8) コミュニティ・スクールとしての利点を生かし、地域との協働・連携を強化する。
- (9) ライフ・エンゲージメントの高揚を図りながら、教員のウェルビーイングを醸成させる。

5 本年度の重点方針及び具現化するための取組 (【●】は新規または重要課題)

- (1) 知識・技能の定着を図りながら、すべての生徒の学力を伸長させる。
 - ①『新・六中授業スタンダード』を実践し、学習を自己調整することのできる「アクティブラーナー」の育成を図る。【●】
 - ア) 単元などまとまりのある学習単位に留意した指導及び評価
 - イ) 「ファシリテーション」に留意した指導展開(特に「見通し」を意識した指導)
 - ウ) デジタルの効果的な利活用
 - ②「『苦手』は克服」させ、「『得意』は伸長」させる指導の工夫
 - ③ステップアップクラス、スタディ・サプリの運用の継続
 - ④「学びに向かう力」調査の実施の継続及び分析・評価等
 - ⑤教員による研修の工夫・改善(「一人一講座研修」の継続、研修の方法や形態の工夫等)
- (2) 体験的な学習活動を充実させ、社会との関わりなどについて自ら考えをもち深化させる。
 - ①修学旅行・移動教室や校外学習の内容の刷新、生徒が企画する卒業遠足の実施【●】
 - ②他の学校や教育機関との連携・協働(オンライン等による交流も含む)【●】
- (3) 総合的な学習の時間の内容を工夫・改善し、課題発見及び解決を図る力等を醸成させる。
 - ①地域学習、SDGsに関する学習(ESD)、アントレプレナーシップ教育の実践
 - ②各分野で活躍するゲストティーチャーによる講義・講演(『六中コラボ』)
 - ※1回は、生徒自らが興味・関心に基づいて選択する。
 - ③創造性を生かし、「新たなもの」を生み出す学習の展開(『六中ゼミ』)
 - ④IT(情報)リテラシーの指導
 - ⑤他の学校や教育機関との連携・協働(オンライン等による交流も含む)【再掲】【●】
- (4) 学校行事の工夫・改善を図り、主体性や自己有用感といった資質や態度を育成する。
 - ①従来の学校行事の精選や再検討、生徒が新たに挑戦する機会となる行事等の検討【●】
 - ②全校生徒を対象とした校外学習や異年齢集団による活動の検討・実施【●】
 - ③キャリアパスポートの工夫・改善
- (5) 『DE&I』(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の理念等を理解させ、実践する態度を養う。【※別添資料参照】
 - ①道徳科の授業の工夫ある実践
 - ②生徒会を中心とした取組の検討・実施
 - ③校外の方との交流学习・活動【●】
- (6) 小中で連携した活動及び研修の方法等について工夫しながら9年間の見通しをもった指導を行い、資質・能力の育成や人格形成を支援する。
 - ①児童会・生徒会の協働・連携(新たな活動の新設等)【●】
 - ②中学校教員の教科の専門性等を生かした取組の実施
- (7) CSを活用しながら地域や社会とのさらなる協働・連携を図り、社会との関わりに対する意識の醸成や所属感などを育成する。
 - ①CSを中心とした教育活動の連携
 - ②地域の方を対象とした体験教室の学校での開催
 - ③教育活動に参画するボランティアの募集・実践(給食、清掃等)【●】
- (8) 生徒及び教員のウェルビーイングの醸成を図るための取組をさらに推進する。
 - ①教員による日常的な観察・評価、校長による3年生全員面談の継続
 - ②働き方改革のさらなる推進(長期休業日の日直対応、F-M-Day、定時退勤日)

令和8年度 DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)教育について

1 「異文化（多文化）理解」の授業の実践

- (1) 各教科において、少なくとも1つの単元の中で、異文化について考え理解を深める学習活動を展開する。
- (2) 総合的な学習の時間や道徳科の授業では、適切な資料等の活用、またゲストティーチャーの講話に基づき、異文化について考え理解を深める学習活動を工夫する。
- (3) 校外での学習活動（校外学習、移動教室、修学旅行等）において、異文化理解に関連する学習等を各学年で計画、実践する。

2 『LGBTQ+』に関する配慮

- (1) 各教科の学習活動において、男女を区別した活動、編成、呼びかけ等を行わないようにする。ただし体育の授業など、安全面等を考慮し区別する場合は例外とする。
- (2) 特別活動等においては、性別による役割分担をなくし、生徒自身が選べる機会を設ける。
- (3) 呼称はすべて統一する（「～さん」）。授業等においては、生徒間でも同様とする。
- (4) 日常の学校生活や宿泊を伴う行事、進路指導などにおいて、ルール・マナーや約束ごとを設定する際には、性別による記載の別は行わない。また、偏ったセクシャリティの概念と受け止められる記載等をしない。ただし、保健安全上また社会通念上などで必要とされる場合にはこの限りではない。

3 障害や特別に配慮を要する生徒との共生

- (1) 職員間で生徒情報等を共有の上で、デジタルを有効に活用しながら、個に応じた指導を工夫する。
- (2) 個別に支援等を要する生徒の対応については、職員間で十分に検討し実践を図る。
- (3) 特別支援教育に関する職員研修を計画的に実施する。

4 家庭環境の違いの尊重

- (1) 家庭に関する情報等をたずねる必要がある場合には、他の生徒がいないことを十分に確認の上で行う。なお、家庭に関する情報については本人からの発信を基本とし、特別な場合を除いては教職員から尋ねるといったことがないようにする。
- (2) 名前や出生等の情報について、公表するような場面を設定しない。
- (3) 家庭に配布文書に関する記載の依頼、また家庭学習や宿題等に関する依頼などを行う際には、過度の負担を与えないよう十分に留意する。